おはなし散歩道

秋まつりとオバケ畑

湯沢町　宮樫あい子

「体育の日の連休は、田舎にいくよ」とパパがいいました。

二年生のアコちゃんは大よろこびです。

田舎は、パパの車で三時間ぐらい乗った小さな山村です。

田舎の家には、二つ年上のミユちゃんがいます。

アコちゃんたちは、午後の三時頃に着きました。

神社の方から、祭りばやしの太鼓や笛の音が聞こえてきます。

夜、みんなで行くことにしていましたが、アコちゃんは待ちきれません。

「おばあちゃん。ミユちゃんは？」

「友だちと出かけたよ」と教えてくれました。

「わたしも、いっしょに行きたかったのに……」

アコちゃんは、ひとりで玄関をとび出しました。

「気をつけるんだぞ」

「道、わかるの？」

パパとママの声が追いかけます。

「だいじょうぶ！」

神社へ行く道は、毎年来ているので、よくわかります。バス停の先にある雑貨屋のわきの道を行き、三本松の土橋を渡ると神社です。参道には、沢山のちょうちんが飾られているはずです。

「そうだ、近道しよう」

去年、ミユちゃんの友だちと近道したのを思い出しました。

雑貨屋の手前の細い道を抜けると、杉林がありました。杉林の入り口に、お地蔵さまが立っています。アコちゃんは、ペコッと頭をさげて杉林の中に入りました。

お地蔵さまが、にっこりしたようです。

杉林を……どんどん、通り抜けていきました。

「えっ？　まだぁ？」

行っても、行っても杉林からぬけられません。

「おかしい？　違うわ！」

気がつくと、杉林から、かぼちゃ畑になっていました。

「どうなってんの、ここは……」

いつか、おばあちゃんが話していた「オバケ畑」かもしれません。

『杉林の先は、畑に続いていて、オバケが出る、オバケ畑だよ。奥山のお墓からオバケが出て来て遊んでいるんだ。オバケ畑に入ったら大人も子どもも、出てこられないんだからね……』

と聞きました。

「やだ、やだ。助けて！」

アコちゃんが叫んだら、アホ、アホー　とあざ笑う声が聞こえました。

カサカサ、カサカサ、誰かが来ます。

キャ！　耳をふさいで、しゃがみ込みました。

泣きそうになった時、

「おいで、おいで」

笑顔のかわいいお坊さんです。丸坊主で黒い衣を着た子どもの尼さんでした。尼寺に、子どもがいたかしら？　なんて、思うひまもありません。後について行きました。

杉林に入って、どんどん歩いたら、祭りばやしが聞こえてきました。

「ありがとう」とふりかえったら、子どもの尼さんの姿がありません。

「アコちゃーん！　さがしたんだよ」

パパとママとミユちゃんが走ってきました。

「オバケ畑で迷ったの……でも……子どもの尼さんが助けてくれたわ」

「うそ！　いま尼寺は、誰もいないよ」

ミユちゃんが、驚きました。

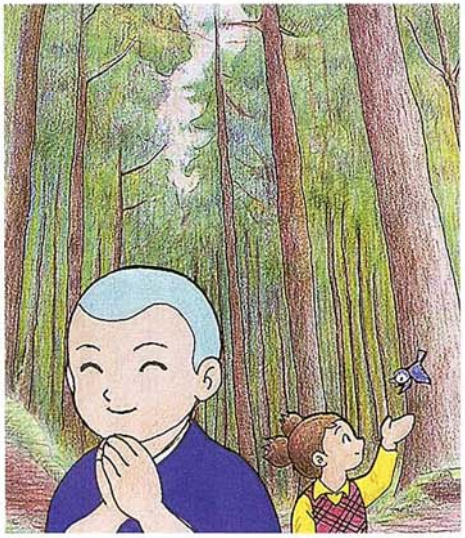
あっ！　アコちゃんは杉林の入り口のお地蔵さまを思い出しました。

「きっと、あのお地蔵が助けて下さったんだわ」

笑顔が、にています。

「ありがとう」と心の中でお礼をいいました。

（さし絵・小出　茂）



高尾山　季節散歩

暦の言葉

「七十二候」

鴻雁来「こうがんきたる」

十月八日～十月十二日

「鴻雁」とは大型の雁を意味する。雁は冬鳥で、北方からの渡り鳥である。

この頃には他に鴫や鶫なども日本に飛来し、秋の深まりを感じさせる時期である。

今月の風物詩

ほっき貝

十月～三月が旬の時期となり、漢字では「北寄貝」と書き、北海道が代表的な産地である。

八王子市と北海道の苫小牧市は姉妹都市であり、その関係から高尾山の春季大祭には、苫小牧市から風の会が参列され、毎年ほっき貝を奉納される。

■健康登山者投稿作品■

季節の絵手紙「秋の訪れ」

八王子市　栃谷玲子　様

一歩一歩煩悩滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

五十一段　明るい声でもてなす

五十段　すぐにあきらめず頑張ること

四十九段　いざという時に備えて力を蓄えること

◎健康登山の皆様へ

高尾山報投稿の御案内

御護摩受付所では、皆さまの『健康』に関する思いや思い出・習慣、又は『健康登山』を通じて経験した出来事などの心温まるお話を聞かせて頂いています。

そこで、皆様のお話を多くの方々にお届けできますように、御護摩受付所に「投稿箱」を設置致しまして、皆様から投稿頂いたお話や作品を、『高尾山報』に掲載させて頂いております。

その他、おもしろい体験・変わった出来事・ポエム・俳句等どんなお話でも結構です。是非お聞かせください。御協力宜しくお願い致します。

※　投稿頂きました作品は全て掲載できるよう努めますが、当山の判断で掲載しない場合もあります。また、多くの方に投稿頂きました場合、掲載までお時間を頂く場合がございますことを御了承下さい。

『高尾山健康登山の証』のお勧め

年間約二百八十万人の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。

登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、いまでは約五万人の方々が会員となられております。

期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみください。

また、一冊に付き二十一回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います。満行されますとお祝い膳として、精進料理の御接待や、健康登山者限定の記念品などと交換もできます。

帳面……七百円
スタンプ…百円